

IAEA6月報告書 正誤表(日本語)

頁	行	図表	誤	正
概要 p.12	27行目		同日15時40分に津波により・・・	同日15時36分に津波により・・・
概要 p.39		上表	(表中の5号機の原子炉型式)「BWR5」	(表中の5号機の原子炉型式)「BWR4」
Ⅲ-2	注釈		² 震源過程: 震源における理論的な破壊モデルを仮定した上で、観測地震動の時刻歴波形データを用いて、同データに整合するように、断層破壊面における変位の食い違いの量を解析するプロセス。	² 震源過程: 断層面上の破壊伝播過程。一般的に、subfaultで生じた波から合成された理論波形と観測波形との違いを最小化する波形インバージョンから推測する。
Ⅲ-5	3行目		4月7日23時32分に宮城県沖(深さ約40km、 <u>M7.0</u>)	4月7日23時32分に宮城県沖(深さ約40km、 <u>M7.1</u>)
Ⅲ-5	10行目		井戸沢断層付近において、4月11日に地震(<u>M7.1</u>)が発生した。	井戸沢断層付近において、4月11日に地震(<u>M7.0</u>)が発生した。
Ⅲ-8	12行目		(防災科学研究所5月19日現在)	(防災科学技術研究所5月19日現在)
Ⅲ-8	16行目		全死亡者・行方不明者は、 <u>24,769</u> 名	全死亡者・行方不明者は、 <u>23,769</u> 名
Ⅲ-8	23行目		押し・引き波	押し波・引き波
Ⅲ-9	15行目		(読売新聞社、4月3日記事)	削除
Ⅲ-9	18行目		(読売新聞社、3月30日記事)	(読売新聞社、4月3日記事)
Ⅲ-9	19行目		太田部地区	太田名部地区

Ⅲ-20		図Ⅲ-1-13	(右図)Mj7.1	(右図)Mj7.0
Ⅲ-26		図Ⅲ-1-17	(右図、キャプション)太田部地区	(右図、キャプション)太田名部地区
Ⅲ-27	最終行		2号機、3号機及び5号機の原子炉建屋基礎版上の観測記録の応答スペクトルと基準地震動Ssを原子炉建屋基礎版に入力した場合の建屋基礎版の応答スペクトルとの比較図を図Ⅲ-2-2(b)に示す。	2号機、3号機及び5号機の原子炉建屋基礎版上の観測記録の応答スペクトルと基準地震動Ssを入力して算定した建屋基礎版の応答スペクトルとの比較図を図Ⅲ-2-2(b)に示す。
Ⅲ-29	4行目		…専門家は東京電力より公開された津波の防波堤(10m)の越流状況の写真に基づき、10m以上と推定している。	…専門家は東京電力より公開された津波の防波堤(10m)の越流状況の写真に基づき、10m以上と推定している。したがって、海水ポンプ位置での津波高さは10m以上と考えられる。
Ⅲ-48	8行目		JEAG 4681-2008	JEAG 4601-2008
Ⅲ-49	2行目		水平方向の最大加速度は、 <u>214</u> Gal(南北方向)	水平方向の最大加速度は、 <u>225</u> Gal(東西方向)
Ⅲ-49	7行目		活断層層	活断層
Ⅲ-57		図Ⅲ-3-7	(下図の凡例中、一番下の)超過確率別応答スペクトル「年超過確率(10^{-5})」	(下図の凡例中、一番下の)超過確率別応答スペクトル「年超過確率(10^{-6})」
Ⅳ-3	10行目		「原子炉の位置	「原子炉施設の位置
Ⅳ-3	18行目		発電用軽水型原子炉施設における	発電用軽水型原子炉施設に関する
Ⅳ-3	下から4行目		極めてまれにはあるが	極めてまれではあるが
Ⅳ-4	3行目		極めてまれであるが	極めてまれではあるが
Ⅳ-4	7行目		地震動が施設に	地震動の影響が施設に
Ⅳ-10	注釈1行目		床面の三ンクリート	床面のコンクリート

IV-13		表IV-2-1	炉心スプレイ系(CS) ポンプ吐出圧力[kg/cm ² g]	炉心スプレイ系(CS) 「系統設計圧力」[kg/cm ² g]
IV-14	(最終行)③ 非常用DG の専用化	表IV-2-2	～2,4,5号機に～	～2,4,6号機に～
IV-14	(最終行)③ 非常用DG の専用化	表IV-2-2	福島第二 1～4号機(BWR-5) ○	福島第二 1～4号機(BWR-5) 二
IV-14		表IV-2-2	1.①□循環ポンプトリップ(RPT)	1.①再循環ポンプトリップ(RPT)
IV-14		表IV-2-2	2.①□替注水手段	2.①代替注水手段
IV-14		表IV-2-2	3.①□D/Wクーラー	3.①D/Wクーラー
IV-14		表IV-2-2	4.①□源の融通	4.①電源の融通
IV-29		表IV-3-1	(福島第二, 1号機, 使用済燃料プール, 地震発生前の状態)1570体(うち新燃料200体)	(福島第二, 1号機, 使用済燃料プール, 地震発生前の状態)1770体(うち新燃料200体)
IV-29		表IV-3-1	(福島第二, 2号機, 使用済燃料プール, 地震発生前の状態)1638体(うち新燃料80体)	(福島第二, 2号機, 使用済燃料プール, 地震発生前の状態)1718体(うち新燃料80体)
IV-29		表IV-3-1	(福島第二, 3号機, 使用済燃料プール, 地震発生前の状態)1596体(うち新燃料184体)	(福島第二, 3号機, 使用済燃料プール, 地震発生前の状態)1780体(うち新燃料184体)
IV-29		表IV-3-1	(福島第二, 4号機, 使用済燃料プール, 地震発生前の状態)1672体(うち新燃料80体)	(福島第二, 4号機, 使用済燃料プール, 地震発生前の状態)1752体(うち新燃料80体)
IV-30	15行目		富岡選	富岡線
IV-33	9行目		…、コンクリートポンプ車による海水放水が行われた。	…、コンクリートポンプ車による海水または淡水の放水が行われた。

IV-45		表IV-5-1 3/12 4:15	<u>4:15</u>	<u>2:45</u>
IV-45		表IV-5-1 3/12 7:55	<u>7:55</u>	<u>7:30</u>
IV-45		表IV-5-1 3/12 7:55	TAF- <u>100</u> から200mm(燃料域A)	TAF <u>0</u> から200mm(燃料域A)
		表IV-5-1 3/12 7:55	TAF- <u>100</u> から200mm(燃料域B)	TAF から200mm(燃料域B)
IV-46		表IV-5-1 4/9	→04:10 原子炉压力容器への窒素封入を高純度窒素発生措置に切替(弁全開)	→04:10 原子炉格納容器への窒素封入を高純度窒素ガス発生装置に切替(弁全開)
IV-46		表IV-5-1 5/5 16:36	排風機	排風機
IV-46		表IV-5-1 5/9 4:17	原子炉建屋の二重扉を全解放	原子炉建屋の二重扉を全開放
IV-53	30行目		約5時間後	約80時間後
IV-58		表IV-5-2 3/12 0:30	RCIC停止中、・・・ドライウェル(D/W)圧力40kPa(3月11日23時55分)	RCIC停止中、・・・ドライウェル(D/W)圧力40kPa(3月11日23時25分)
IV-58		表IV-5-2 3/13 3:00	3月12日0時30分現在40kPa	削除
IV-58		表IV-5-2 3/14 19:54	海水注入開始(1台の消火ポンプ起動)	海水注入開始(1台の消防ポンプ起動)
IV-58		表IV-5-2 3/14 21:03	原子炉圧力低下	原子炉圧力
IV-58		表IV-5-2 3/14 21:20	3/14 21:20以降、SRV駆動用空気圧や空気供給ラインの電磁弁の励磁維持の問題によるSRV(逃がし安全弁)の閉鎖と開操作がなされた様子	3/14 21:20以降、SRV駆動用空気圧や空気供給ラインの電磁弁の励磁維持の問題によるSRVの閉鎖と開操作がなされた様子

IV-58		表IV-5-2 3/15 15:25	0.119Pa	0.119MPa <u>gage</u>
IV-58		表IV-5-2 3/29 15:30	<u>15:30</u>	<u>16:30</u>
IV-58		表IV-5-2 3/30 17:05	17:05 消防ポンプによる使用済燃料プールへの注水再開	削除
IV-59		表IV-5-2 4/19 17:28	約 <u>50t</u>	約 <u>47t</u>
IV-59		表IV-5-2	<u>5月15日</u>	<u>5月14日</u>
IV-63	8行目		新富岡	新福島
IV-63	31行目		直流を要する負荷	直流電源を要する負荷
IV-71		表IV-5-3 3/17 19:35	使用済燃料プールへの機動隊の消防車による放水開始	使用済燃料プールへの自衛隊の消防車による放水開始
IV-71		表IV-5-3 3/17 20:09	使用済燃料プールへの機動隊の消防車による放水終了、約30t	使用済燃料プールへの自衛隊の消防車による放水終了、約30t
IV-72		表IV-5-3 5/8 14:10	60t	約60t
IV-73 -74 -75			図IV-5-4 図IV-5-5 図IV-5-6	図IV-5-7 図IV-5-8 図IV-5-9
IV-76	14行目		新富岡変電所	新福島変電所
IV-79		表IV-5-5 3/20 18:30	18:30 自衛隊が使用済燃料プールへの放水開始	18:30頃 自衛隊が使用済燃料プールへの放水開始
IV-79		表IV-5-5 3/25 10:20	使用済燃料プールへのFPCからの注水終了、約20t	使用済燃料プールへのFPCからの注水終了、約21t

IV-80		表IV-5-5 5/6 12:16	使用済燃料プール水位計測。温度測定	削除(同じ記載が2つあるため)
IV-80		表IV-5-5 5/7 11:00	温度計測	水中撮影
IV-83		表IV-5-6 3/26 23:30	<u>23:30</u>	<u>23:20</u>
IV-84	11行		その後、15時 <u>40分</u> には、津波の影響を受けて…	その後、15時 <u>36分</u> には、津波の影響を受けて…
IV-87		表IV-5-8	(崩壊熱の単位が示されていない)	<u>MW</u>
IV-87		表IV-5-8	(5号機, 崩壊熱, 事故発生時点(3/11)) <u>1.00</u>	(5号機, 崩壊熱, 事故発生時点(3/11)) <u>1.01</u>
IV-87		表IV-5-9	(3号機, 採取日) <u>4月28日</u>	(3号機, 採取日) <u>5月8日</u>
IV-88		表IV-5-10 3/28	共用プール温度 <u>53°C</u>	<u>8:00</u> 共用プール温度 <u>34°C</u>
IV-91		表IV-5-11	(検出核種(半減期), ヨウ素131(約8日), 3号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>6.6×10^5</u>	(検出核種(半減期), ヨウ素131(約8日), 3号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>1.2×10^6</u>
IV-91		表IV-5-11	(検出核種(半減期), ヨウ素131(約8日), 4号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>4.3×10^3</u>	(検出核種(半減期), ヨウ素131(約8日), 4号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>3.6×10^2</u>
IV-91		表IV-5-11	(検出核種(半減期), セシウム134(約2年), 3号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>1.5×10^6</u>	(検出核種(半減期), セシウム134(約2年), 3号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>1.8×10^5</u>
IV-91		表IV-5-11	(検出核種(半減期), セシウム134(約2年), 4号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>7.8×10^3</u>	(検出核種(半減期), セシウム134(約2年), 4号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>3.1×10^1</u>
IV-91		表IV-5-11	(検出核種(半減期), セシウム137(約30年), 3号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>1.6×10^6</u>	(検出核種(半減期), セシウム137(約30年), 3号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>1.8×10^5</u>
IV-91		表IV-5-11	(検出核種(半減期), セシウム137(約30年), 4号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>8.1×10^3</u>	(検出核種(半減期), セシウム137(約30年), 4号機, タービン建屋地下階, H23.3.24) <u>3.2×10^1</u>

IV-118	2行目		発電用軽水型原子炉施設における	発電用軽水型原子炉施設に関する
IV-118	下から3行目		平成元年月27日	平成元年2月27日
V-3	4行目		同行した保安院職員及び原子力安全委員会～	同行した保安院職員、文部科学省職員及び原子力安全委員会～
V-3	6行目		また、ほぼ同じ頃に、別途移動していた文部科学省職員も現地に到着した。	削除
V-17	5行目		4月26日に公表した。	4月26日に20Km圏内のデータも含めて、公表した。
V-18	16行目		又は3600秒(サンプルによって異なる)	削除
V-18	32行目		1000秒又は3600秒	1000秒、2000秒又は3600秒
V-20	22行目		(e)航空機モニタリング(3月25日採取分より測定開始) 地表面への・・・	(e)航空機モニタリング(3月25日採取分より測定開始) 東京電力福島第一原子力発電所から放出される放射性物質の放出状況や広域における地表面への・・・
V-20	23行目		把握、	把握等のため、
V-20	23行目		計画的避難区域等の設定の評価に資するこのなどのため	削除
V-20	24行目		文部科学省が	文部科学省は
V-20	25行目		地上に蓄積した放射性物質を広範囲かつ迅速に測定した。	ヘリコプターを活用したモニタリングを実施した。
V-33	16行目		なお、政府全体の体制(上記1.(2)③a参照)に基づき・・・	なお、政府全体の体制(上記1.(2)②a参照)に基づき・・・
V-35	2行目		上記1.(2)③bのような制約により・・・	上記1.(2)②bのような制約により・・・
VI-4	2行目		海洋への放出量について	海洋への流出量について
X II-2	9行目		設計の基準地震動の加速度応答スペクトル	基準地震動Ssによる原子炉建屋基礎版の応答の加速度応答スペクトル

X II-2	14行目		福島原子力発電所を襲った津波については、設置許可上の設計およびその後の評価による想定高さを大幅に超える14~15mの規模であった。	福島原子力発電所を襲った津波は、高さ10mの防波堤を越えており、設置許可上の設計およびその後の評価による想定高さを大幅に超えるものであった。浸水高さも14~15mに達した。
X II-2	28行目		地震の想定については、複数震源の連動の取扱を考慮するとともに、外部電源の耐震性を強化する。	地震に想定については、複数震源の連動の従来からの取扱を再考するとともに、外部電源の耐震性を強化する。
添付IV-2 P2	12行目		約84万テラベクレル	約77万テラベクレル
添付IV-2 P7		表5 Te131m	9.5×10^{13} 、 5.4×10^{10} 、 1.8×10^{12} 、 9.7×10^{13}	2.2×10^{15} 、 2.3×10^{15} 、 4.5×10^{14} 、 5.0×10^{15}
添付IV-2 P7		表5 Te132	7.4×10^{14} 、 4.2×10^{11} 、 1.4×10^{13} 、 7.6×10^{14}	2.5×10^{16} 、 5.7×10^{16} 、 6.4×10^{15} 、 8.8×10^{16}
添付IV-2 P7		表5 I132	4.5×10^{14} 、 9.6×10^{11} 、 1.8×10^{13} 、 4.7×10^{14}	1.3×10^{13} 、 6.7×10^6 、 3.7×10^{10} 、 1.3×10^{13}
添付IV-2 P7		表5 I133	6.5×10^{14} 、 1.4×10^{12} 、 2.6×10^{13} 、 6.8×10^{14}	1.2×10^{16} 、 2.6×10^{16} 、 4.2×10^{15} 、 4.2×10^{16}
添付IV-2 P7		表5 I135	6.1×10^{14} 、 1.3×10^{12} 、 2.4×10^{13} 、 6.3×10^{14}	2.0×10^{15} 、 7.4×10^{13} 、 1.9×10^{14} 、 2.3×10^{15}
添付IV-2 P7		表5 Sb129	1.6×10^{14} 、 8.9×10^{10} 、 3.0×10^{12} 、 1.6×10^{14}	1.4×10^{14} 、 5.6×10^{10} 、 2.3×10^{12} 、 1.4×10^{14}
添付IV-2 P7		表5 Mo99	8.1×10^7 、 1.0×10^4 、 6.7×10^6 、 8.8×10^7	2.6×10^9 、 1.2×10^9 、 2.9×10^9 、 6.7×10^9
添付IX-4 P7			(3月分の表が欠落)	添付IX-4,P7の最初のページとして、3月分の表(別添)を挿入